

仕事に生かすならこの1冊



『未来を予見する 「5つの法則」』

田坂広志著
光文社

1600円(税抜き)

ISBN978-4-334-97546-3

大局観で未来を見通す

評者 岡部 弘 デンソー相談役

もし未来を知ることができたらどんなに素晴らしいことか。誰もがそう思うだろう。

ビジネスにも個人生活にも役立つ。しかし、変化の激しい現代社会では、半年先のことすら誰にも分からない。金融危機がもたらした世界経済の急速な悪化に直面して、そうした思いを強くしている人は多いに違いない。

なぜ未来が予測できないか。それは現代の変化が、思いもかけないパターンで、突然かつ急速に発生するからだ。したがって、これまでの延長線上で、近い将来の変化だけを考えていると、未来は全く見えなくなってしまう。

ではどうすべきか。著者の回答は「未来は『予測』できないが、『予見』することはできる」。すなわち、「大局的方向を知る」ということである。

未来を「予見」するうえで最も大切なことは、世界が発展し進化していく「法則」を学ぶことである。その法則を学ぶ手がかりが「弁証法」にあるという。弁証法とは「正(テーゼ)」と「反(アンチテーゼ)」、「合(ジンテーゼ)」というプロセスで思考を深めていく考え方が、世界の発展・進化をこうした考え方で整理してみると、うまく説明できる。こうして導き出された弁証法の「5つの法則」を用いて予見した未来の姿を「これから起こる12のパラダイム転換」として提示している。

例えば、現代の世界を覆う混乱は、「一神教」と徹底した合理主義に裏打ちされた「西洋文明の行きづまり」がもたらしたものであるが、こうした混乱から脱却する道は東洋文明(東洋的地球観)との融合しかないという。

こうした融合の中から「新たな文明」が生まれる。その扉を開いた時、現在の世界が抱える、人口爆発、食料危機、資源枯渇、飢餓、貧困、差別、テロ、といった様々な困難を解決する「鍵」を手にすることができる。そうした兆しはそこかしこに散見できるという。

本書は著者の海外での数多くの講演活動における反響に後押しされて、新たな書き下ろし部分を追加してまとめられた。コンサルタントの時代から一貫して東洋的な労働観、人間尊重に基づく経営のあり方を訴え、多数の著書も存在するが、これまでの業績と思索を集大成したものが本書ではないかと思う。世界に活動の場を広げた著者の主張が世界の多くの人々に受け入れられ、その「予見」が現実のものとなるよう期待している。